

病害虫情報(第5号)8月予報

令和5年7月31日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 8月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ】
- II 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和5年7月19日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 8月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育: やや早(生産技術部: はるみ)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病 (穂いもち)	並	△	(予・治) コラトップ粒剤5 [出穂30日前～5日前, 2回] 3～4kg/10a (予・治) ブラシフロアブル [7日, 2回] 1,000倍 ◆ ブラシンを飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意する。
紋枯病	やや多	○	(予・治) リンバー粒剤 [30日, 2回] 3～4kg/10a (予・治) モンカット粒剤 [出穂30～10日前(但し, 14日), 3回] 3～4kg/10a ◆ 粒剤を使用する場合の防除適期は出穂10日前程度である。
斑点米カメムシ類	並	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日, 3回] 3kg/10a エミリアフロアブル [7日, 2回]
ヒメトビウンカ	やや多	△	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ: 1,000倍 キラップ粒剤 [14日, 2回]
セジロウンカ	並	△	カメムシ類、ウンカ類: 3kg/10a ◆ キラップは斑点米カメムシ類対策を主として使用する。
トビイロウンカ	並	△	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底するが、水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃から周辺の除草は控える。
ツマグロヨコバイ	並	△	粒剤を使用する場合の防除適期は出穂7日後と21日後頃、水和剤・乳剤等を使用する場合は出穂10日後と24日後頃である。
ニカメイチュウ	並	△	詳細は「防除情報(病害虫情報 号外 第6号)」を参照する。
スクミリンゴガイ	—	△	◆ 卵塊・貝を見つけた場合は潰して捕殺する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

※飼料用米栽培において農薬を使用する場合は、次の対策に留意する。

- ①飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは糞糺りをして玄米で給餌すること。
- ②粃米のまま、もしくは粃殻を含めて給餌する場合は、出穂以降の農薬散布は控えること。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 前回防除後、累積降水量が250mmを超えた時点で防除を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 + クレフノン [-,-] 200倍 みかん:[7日,5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 ◆ 傷口から感染するため、ミカンハモグリガの防除を行い、台風通過が予想される前には予防散布する。
ミカンハダニ	やや多	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 等
ミカンサビダニ	—	○	
チャノキイロアザミウマ	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回]1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) オーシャイン水和剤 [前日,5回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	やや多	○	アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 スカウトフロアブル [前日,5回] シンクイムシ類:2,000倍、カメムシ類:1,500倍
カメムシ類	やや少	△	フェニックスフロアブル [前日,2回] シンクイムシ類:4,000倍 等 ◆ 山際の園ではカメムシが飛来する可能性があるので注意する。発生が見られたらただちに防除する。
ハダニ類	並	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【ブドウ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや少	○	(予) Zボルドー[-,-] 500~800倍 + クレフノン[-,-] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) アミスター10フロアブル [7日,3回] 1,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [前日,6回] 1,000~1,500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日,3回] 1,000~1,500倍 等 ◆ ベルクートは西村早生では薬害を生じるので使用しない。
カキノヘタムシガ	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 フェニックスフロアブル [7日,2回]
カメムシ類	やや少	○	カキノヘタムシガ:4,000倍 等 ◆ カキノヘタムシガの平年の防除適期は8月上旬である。 ◆ カメムシ類はナシの項を参照する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハマキ	並	△	ロディー乳剤 [7日,1回] チャハマキ:1,000倍、 チャノコカクモンハマキ:1,000~2,000倍 カスケード乳剤 [7日,2回] 4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「摘採*日前まで」を「*日」に、「摘採前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
コナジラミ類 タバコ コナジラミ オンシツ コナジラミ	多 —	○ ○	<p>【育苗期:粒剤施用】</p> <p>ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株</p>								
アザミウマ類	—	○	<p>【育苗期:散布】</p> <p>ディアナSC [前日,2回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、コナジラミ類:2,500倍</p> <p>グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍</p> <p>ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。</p> <p>【定植時:土壌施用】</p> <p>モスピラン粒剤 [定植前日~定植当日,1回:株元散布] コナジラミ類:1g/株</p> <p>【定植後:散布】</p> <p>ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍</p> <p>モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍</p> <p>マッチ乳剤 [前日,4回] アザミウマ類:1,000~2,000倍、コナジラミ類:2,000倍</p> <p>ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。</p> <p>◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。 ◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベッドにトンネル掛けする。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —]										
うどんこ病	—	○	うどんこ病:1,000～2,000倍 (予) ボタニガードES [発病前～発病初期, —] うどんこ病:1,000倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] うどんこ病:1,000倍、べと病:1,000～1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000～2,000倍 ◆ 育苗期の殺菌剤散布は、病害予防の効果が高い。但し、高温による薬害に注意する。										
アブラムシ類	並	○	【育苗期:株元施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株										
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	—	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:[植穴又は株元土壌混和] 1～2g/株 コナジラミ類:[植穴土壌混和] 2g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1～2g/株 ミナミキイロアザミウマ:2g/株										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	【育苗期～定植後:散布】 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:3,000倍 ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 ボタニガードES [発生初期, —] アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類:1,000倍 等 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			<ul style="list-style-type: none"> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。 ◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベッドにトンネル掛けする。 										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<p>【育苗期】 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前),6回] 600倍 (予) オーツサイド水和剤80 [収穫開始14日前,5回] 800倍 (予) キノドーフロアブル [育苗期,3回] 500～800倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期,6回] 500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 (予・治) シグナムWDG [前日,2回] 2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>【育苗期:土壌灌注】 (予) フロンサイドSC [育苗期,1回:灌注] 1,000倍、50ml/株 等</p> <p>◆ 発病した苗の治療は期待できない。発病株とその隣接株を速やかに処分する。 ◆ 薬剤防除は10～14日間隔でローテーション散布し、発病が見られたら4～7日間隔に短縮する。</p>
うどんこ病	—	○	<p>【育苗期】 (予) サンヨール [前日,6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日,-] 800～1,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前),5回] 1,000倍 (予・治) シグナムWDG [前日,2回] 2,000倍 等</p> <p>☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要。特に7月に発生が見られた場合は、高温期の防除を徹底する。 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は生存している。 ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。</p>
ハダニ類	やや多	○	<p>コテツフロアブル [前日,2回] ハダニ類、シクラメンホコリダニ:2,000倍</p>
チャノホコリダニ シクラメンホコリダニ	—	○	<p>サンマイトフロアブル [収穫開始3日前,1回] 1,000～1,500倍 エコピタ液剤 [前日,-] ハダニ類:100倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] ハダニ類:300～600倍 等</p> <p>◆ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。</p>
ハスモンヨトウ	並	○	<p>コテツフロアブル [前日,2回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,2回] 2,000倍 等</p>

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤[前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ポリベリン水和剤[前日,3回] 1,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ショウチノスケフロアブル[前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並 やや多	○ ○	ディアナSC[前日,2回] 2,500～5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日,3回] 1,000～2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	ディアナSC[前日,2回] 2,500～5,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	スターマイトフロアブル [前日,1回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回]
チャノホコリダニ	並	○	ハダニ類:1,000～1,500倍、チャノホコリダニ:1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑病 さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回]600倍 (予・治) ハチハチ乳剤[7日,2回] さび病:1,000倍 (予・治) ラリー水和剤[7日,3回] さび病:2,000倍 (予・治) ポリベリン水和剤[14日,3回] 黒斑病:1,500倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 肥料不足や窒素過多になると発病しやすい。
ネギアザミウマ	やや多	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] アザミウマ類:2,500～5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍
シロイチモジヨトウ	—	△	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍 ハチハチ乳剤 [7日,2回] 1,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [7日,3回] シロイチモジヨトウ:2,000～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予) ダコニール1000 [14日, 2回] 1,000倍 等 ◆ 育苗期から発生に注意する。 ◆ Zボルドーの薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。
ハイマダラノメイガ	—	○	【苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時～育苗期後半, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1,000倍(苗地床1㎡あたり2L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 【セル成型育苗トレイ 又は ペーパーポット灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ <u>ベリマークSCはプリロツソ粒剤オメガと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u> 【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 又は、[定植時, 1回:植穴処理土壌混和] 1～2g/株 ネギアザミウマ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 プリロツソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時, 1回:株元散布] ハイマダラノメイガ:1g/株、アザミウマ類:2g/株 ☞ <u>プリロツソ粒剤オメガはベリマークSCと同じ成分のため、定植時までの処理はどちらか1回とする。</u> 【育苗期～定植後:散布】 アニキ乳剤 [3日, 3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ :1,000～2,000倍 リーフガード顆粒水和剤 [7日, 3回] アザミウマ類、ハイマダラノメイガ:1,500倍 等
ハスモンヨトウ	並	○	
オオタバコガ	並	○	
ネギアザミウマ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 8月の気象予報(気象庁 7月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

*7月20日発表1か月予報による。

(2) 8月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず葉いもちの発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並の予報。(－)
	紋枯病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寺田縄)における生育は、7/25時点において、草丈は過去9年平均と同程度、分けつ数は過去9年平均と同程度、葉色は過去9年平均に比べやや薄い。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並の予報。(＋)
	斑点米カメムシ類	少	並	1) 予察灯への誘殺数は、伊勢原では平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寺田縄)では平年並(±)、海老名、小田原では平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ヒメビウンカ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯への誘殺数は、伊勢原、県予察ほ(寺田縄)では平年より多く(＋)、海老名、小田原では平年並(±)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、発生が平年並。(±) 3) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(寺田縄)では平年よりやや多く(＋)、伊勢原では平年並(±)、海老名、小田原では平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	トビイロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 予察灯への誘殺数は、小田原、県予察ほ(寺田縄)では平年並(±)、伊勢原では平年よりやや少なく(－)、海老名では平年より少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ニカメイチュウ (ニカメイガ)	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、被害は見られず発生が平年並。(±) 3) フェロモントラップへの越冬世代の誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 予察灯への誘殺数は、伊勢原、海老名、県予察ほ(寺田縄)では平年並(±)、小田原では平年よりやや少ない(－)。 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	コブノメイガ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寺田縄)では、被害は見られず発生が平年並。(±) 3) 予察灯への誘殺数は、伊勢原、小田原、海老名、県予察ほ(寺田縄)で平年並(±)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
カンキツ	黒点病 (果実)	少	並	1) 巡回調査では、平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、果実での発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病 (果実)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実ともに発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナシ	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発生は平年より多く(+)、短果枝での発生は平年よりやや少ない(-)。 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	シンクイムシ類	—	やや多	1) フェロモントラップへの第2世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、大井では平年より多く(+)、伊勢原では平年並(±)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ブドウ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ	うどんこ病	—	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	やや少	1) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(根府川)、南足柄、伊勢原のいずれも平年より少ない(-)。 2) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(根府川、上吉沢)、伊勢原では平年より少なく(-)、山北では平年並(±)。 3) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫、成虫ともに平年よりやや少ない。(—) 4) 自然環境保全センターの調査ではヒノキの花粉飛散量は多めであり、ヒノキの球果量は例年よりやや多い。そのため新世代成虫の発生はやや多く、山林からの離脱時期は遅くなると予測される。(±) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
チャ	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(+) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)の叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)の叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	並	1) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年並(±)。 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年並(±)。 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制トマト	タバココナジラミ	－	多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制キュウリ	アブラムシ類	－	並	1) 巡回調査では、ナスでは発生が平年よりやや少なく(－)、露地トマトでは発生が平年並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	－	並	1) ナスの巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 青色粘着板への捕獲虫数は平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和5年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は確認されず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 青色粘着板への捕獲虫数は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 青色粘着板への捕獲虫数は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より多い(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多く(+)、横浜では平年並(±)、伊勢原では平年より少ない(－) 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年よりやや少ない(－) 3) 巡回調査では、露地トマト、露地ナスともに発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」……程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……(+) : 多発要因 (－) : 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回
 - DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(インダー、スコア、アンビル)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作3回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ホライズン)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー、カナメ)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
 - DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(オーシャイン、オンリーワン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロベリー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロベリー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回